

ウズベキスタン公開情報とりまとめ (11月26日～12月30日)

令和3年12月31日

1. 政治

【ミルジヨーエフ大統領動静】

●ミルジヨーエフ大統領とポルトニコフ露連邦保安庁長官との会談

- ・12月1日、ミルジヨーエフ大統領は、ウズベキスタンを実務訪問しているポルトニコフ露連邦保安庁（FSB）長官と会談を行った。
 - ・会談冒頭、ポルトニコフ長官は、ミルジヨーエフ大統領に対し、プーチン露大統領の心からの挨拶を伝達した。
 - ・両国の戦略的パートナーシップ及び同盟関係をさらに強化するという喫緊の問題が検討された。本年11月19日にモスクワ市で開催された、二国間首脳会談の実り多き成果が高く評価された。
 - ・テロ、過激主義、組織犯罪、サイバー犯罪、麻薬密売、その他の挑戦などの対策を含む、現代の安全保障上の脅威に対抗するための両国の所管機関間の定期的な接触の維持及び実務的な協力の発展に特に注意が払われた。
 - ・アフガニスタンの現状を踏まえた地域情勢についても意見交換が行われた。
- (12月1日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とムハンマド・アブダビ皇太子兼UAE軍副最高司令官他との電話会談

- ・ムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子兼UAE軍副最高司令官との電話会談
- (1) 12月2日、ミルジヨーエフ大統領とムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子兼UAE軍副最高司令官との電話会談が行われた。
- (2) ミルジヨーエフ大統領は、平和、安寧、さらなる進歩及び繁栄を心から祈念し、ムハンマド皇太子、UAEの指導者及び友好国民に対し、同国の建国50周年を心から祝福した。
- (3) 国造り及び経済発展の分野におけるUAEの高い成果が特に指摘された。これらは国際的に広く認められ、ドバイで開催中の国際博覧会で改めて実証された。
- (4) 会談の中で、両国の多面的な協力のアジェンダに含まれた喫緊の問題について検討された。
- (5) UAEの主要な組織、企業及び金融機関の参加を得た、代替エネルギー、産業、農業、インフラの近代化、管理職職員の養成、及びその他の優先分野における共同プロジェクトの実りある実務的な協力及び成功裏の推進が満足の意をもって指摘された。
- (6) 新たな「突破口」となる方向及び長期的パートナーシッププログラムを特定するために、活発な対話及び交流を継続する重要性が強調された。
- (7) ムハンマド皇太子は、伝統的に友好的かつ緊密な二国間関係をさらに強化するというUAE側のコミットメントを確認し、両国関係の全面的な協力の継続を支持した。
- (8) 両国首脳電話会談は、友好的で信頼感のある実務的な雰囲気の中行われた。

・ムハンマド・ビン・ラシード・アール・マクトゥームUAE副大統領兼ドバイ首長との電話会談

(1) 12月2日、ミルジヨーエフ大統領は、ムハンマド・ビン・ラシード・アール・マクトゥームUAE副大統領兼ドバイ首長と電話会談を行った。

(2) 会談冒頭、ミルジヨーエフ大統領は、ムハンマドUAE副大統領に対し、建国50周年を温かく祝福し、安寧、持続可能な発展及び繁栄を心から祈念した。

(3) 社会・経済、イノベーション及び人道的発展の全ての分野におけるUAEの高い成果、及び同国の権威が国際場裡で高まっていることが特に指摘された。これらは全て、ドバイで成功裏に開催されている国際博覧会の枠組みで改めて確認されている。

(4) 双方は、伝統的に緊密かつ友好的な二国間関係のさらなる強化、及び、就中、貿易・経済及び投資分野における多面的なパートナーシップの拡大のための幅広い機会があることを強調した。

(5) ハイテク及びイノベーション、「グリーン」エネルギー、貿易・物流分野及び知的潜在力の開花の分野における有望な共同プロジェクトの推進に重大な注意が払われた。

(6) 全ての協力分野の活発な対話及び全面的な協力を継続することで合意に達した。

(7) 電話会談は、オープンで友好的かつ信頼に基づく雰囲気の中で行われた。

・マンスール・ビン・ザード・アール・ナヒヤーンUAE副首相兼大統領担当大臣との電話会談

(1) 12月2日、ミルジヨーエフ大統領は、マンスール・ビン・ザード・アール・ナヒヤーンUAE副首相兼大統領担当大臣と電話会談を行った。

(2) ミルジヨーエフ大統領は、UAEの友好国民の安寧及び繁栄を心から祈念し、UAE側に対し、国民的祝日である同国の建国50周年を温かく祝福した。

(3) 両国の包括的な協力を戦略的に発展させることについて検討された。

(4) ドバイ国際博覧会で明確に実証された両国のポテンシャルなどを考慮した、共同のイノベーションプロジェクト及び財政・技術支援プログラムの実施に特に注意が払われた。

(5) 有望なプロジェクトの新たなポートフォリオを形成するために、近いうちに政府代表団の二国会談を開催することで合意に達した。

(12月2日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・キルギス首脳電話会談

・12月6日、ミルジヨーエフ大統領は、ジャパロフ・キルギス大統領と電話会談を行った。

・ミルジヨーエフ大統領は、ジャパロフ大統領の健康、安寧及び大きな成功、キルギスの友好国民の平和及び繁栄を心から祈念し、同大統領の誕生日を温かく祝福した。

・両首脳は、何世紀にも亘る友好及び善隣の強い紐帯に基づく、両国の戦略的パートナーシップ関係の前向きな強化を満足の意をもって指摘した。

・様々なレベルにおける建設的な対話及び緊密な交流の継続、貿易量の増加、機械工学、エネルギー及び電気工学部門、農業、製薬及びその他の分野における重要な協力プロジェクトを共同で推進する重要性が強調された。地域及びビジネスレベルにおける実務的な協力の拡大、文化・人的交流プログラムの実施に特に注意が払われた。

・両首脳はまた、国際的及び地域的アジェンダについて意見交換を行った。

・電話会談は、従来通り温かく、誠実かつ友好的な雰囲気の中で行われた。

(12月6日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・カザフスタン首脳会談

・大統領府広報部は、(12月6日、)ミルジヨーエフ大統領とトカエフ・カザフスタン大統領が、両国の政府代表団を交えて会談を継続したと発表した。

・ミルジヨーエフ大統領は、「今日、我々は歴史的な決定を下し、我々の協力を同盟関係に引き上げる」と改めて想起した。(同大統領は、)「何世紀にも亘る友好、善隣、相互信頼及び本格的なパートナーシップをさらに強化することを固く決意している。このために全ての可能性及びリソースを活用する。我々の目標は、具体的な内容で兄弟のような両国の多層的な協力を充実させることである」と述べた。

・両首脳は、戦略的パートナーシップを強化するために、国家間最高評議会、議会間協力評議会及び両国外相評議会を設立する意向を表明した。

・会談の中で、二国間協力の新たな「成長点」、優先事項及び課題が示された。

・会談において、第三国からの輸入品を代替することで、需要のある製品の相互供給の品目及び量が大幅に拡大される大きな可能性がある旨述べられた。両首脳は、今後5年間で貿易額を100億米ドルに引き上げる可能性がある旨指摘した。このために、双方は、「ロードマップ」を採択し、卸売・物流センター及び共同農業クラスターを開発することで合意した。

・両首脳は、経済の様々な部門において新たな合併企業を設立する重要性を強調した。優先分野として、投資の誘致、産業協力、農産業複合体、運輸及び物流、エネルギー、製薬及び建設部門などが示された。

・建設、農業及び製薬を含む産業協力プロジェクトの実施について合意に達した。

・(両国首脳会談の)前日に開催されたビジネスイベントの結果、20億米ドル以上の有望な投資プロジェクト一式が準備された。

・これらの取組をさらに推進するために、共同の国際産業協力センターが設立される。

・両国国境地域の知事に対して、製品の相互供給及び新たな協力プロジェクトの策定について一層緊密に協力するよう指示がなされた。

・ミルジヨーエフ大統領は、両国及び第三国の市場進出を確保する、新たなルートを形成する重要性を強調した。両首脳は、「ウチクドゥク＝クズルオルダ」鉄道及び道路、並びに「トルキスタン＝シムケント＝タシケント」高速鉄道の建設プロジェクトを加速することで一致した。

・水資源の合理的な利用についても触れられた。このために、持続可能かつ長期的な互恵的協力のメカニズムを策定し、両国間の水関係の全ての分野の提案を策定するための共同作業部会の作業を継続することで合意した。

・最新の節水技術の導入を加速し、アラル海地域における植林に関する共同活動の実施のための共同措置を講じる必要性が指摘された。

・双方は、中央アジアにおける平和及び安定を確保するために、相互利益及び地域親交の考えを推進しつつ、外交分野における緊密な協力をを行う意向を表明した。

・両首脳は、全参加国の利益を厳に尊重した上で、その可能性を最大限に動員するために、中央アジア諸国首脳協議会合の形式の改善に目的意識を持って取り組むことで合意した。

・会談において、人的交流、教育、科学、保健、文化及び芸術、観光及びスポーツ分野における協力の強化についても議論された。

- ・トカエフ大統領は、ヌルスルタン市に、精神的な共通性及び何世紀にも亘る民族友好の象徴として、アリシェル・ナボイの記念碑が建てられる旨指摘した。
- ・会談の結果について行われたブリーフィングにおいて、「ウ」が、（2022年の）アジア信頼醸成措置会議（CICA）及び独立国家共同体（CIS）の議長国の枠内でのカザフスタンのイニシアティブを支持している旨述べられた。カザフスタンは、上海協力機構（SCO）及び経済協力機構（ECO）において「ウ」が議長国を務めることを支持している。
- ・ミルジヨーエフ大統領は、「今次訪問の中で、我々は多くの文書一式に署名した。それらの中で最も重要なのは、同盟関係に関する宣言であり、それは最高レベルの信頼及びパートナーシップ、ともに歩み全面的な支援を提供する用意の証左である。我々は、両兄弟民族の繁栄のために、何世紀にも亘る友好、善隣及び全面的な協力を強化することを固くコミットする。」と述べた。
- ・ミルジヨーエフ大統領は、トカエフ大統領の都合の良い時にウズベキスタンを訪問するよう招待した。（12月6日付 Gazeta）

●ミルジヨーエフ大統領とナザルバエフ・カザフスタン初代大統領の会談

- ・首脳会談に続いて、ミルジヨーエフ大統領は、ナザルバエフ・カザフスタン初代大統領（エルバシ）と会談を行った。
- ・会談冒頭、ミルジヨーエフ大統領は、ナザルバエフ初代大統領に対し、独立したカザフスタンの創設者の優れた功績を称えて12月1日に祝われる「初代大統領の日」を心から祝福した。
- ・同大統領は、ナザルバエフ初代大統領が示した深く考え抜かれた政治方針のおかげで、兄弟国カザフスタンが社会・政治及び社会・経済生活の全分野において大きな成功を収めた旨指摘した。
- ・同大統領は、両国間の戦略的パートナーシップの発展におけるエルバシの個人的な貢献を高く評価した。本で行われた同盟関係に関する宣言の署名は、両国関係強化の論理的な帰結である。
- ・会談では、二国間アジェンダ及び地域協力について議論された。中央アジア地域において、政治的対話が活性化し、中央アジア諸国首脳協議会合のメカニズムが立ち上げられ、友好及び信頼の雰囲気醸成された旨が指摘された。
- ・ナザルバエフ初代大統領は、両国間の戦略的パートナーシップ及び同盟関係をさらに深化させる上での今次の国賓訪問の重要性を強調した。
- ・その後、ミルジヨーエフ大統領は、カザフスタン初代大統領博物館を訪問した。
- ・同博物館には、ナザルバエフ初代大統領の執務室が当時のまま保存されている。記者との会合及び会談が行われたマジリス・ホールには、現代のカザフスタンの発展を示す展示物が設置されている。多くの展示物は、カザフスタンと外国のパートナーとの外交関係を紹介している。
- ・同大統領は、同博物館を見学し、賓客用のゲストブックに記帳した。（12月6日付大統領府ウェブサイト）

●ミルジヨーエフ大統領とニー・アオライン国連特別報告者との会談

- ・12月7日、ミルジヨーエフ大統領は、ニー・アオライン国連特別報告者（テロ対策における人権及び基本的自由の促進・保護担当）（Ms. Fionnuala Ni Aolain）と会談を行った。
- ・この主要な権威ある国際機関の上級代表によるウズベキスタン訪問は、第75回国連総会においてミ

ルジヨーエフ大統領が提唱したイニシアティブ及び提案を実現する一環として行われた。

- ・人権、現代の課題及び脅威に対抗する上での喫緊のアジェンダに関するオープンかつ建設的な対話のさらなる発展について検討された。
 - ・当該重要分野における協力の実りある性質及び「ウ」が達成した大きな進歩が満足の意をもって指摘された。
 - ・「ウ」は、国連人権理事会（UNHRC）の完全な権利を有するメンバーであり、同理事会の活動に積極的に参加している。来年、「ウ」は、同理事会の指導機関の代表を務める予定である。
 - ・「ウ」の人権に関する国家戦略の枠組の中で、男女平等、言論及び宗教の自由を確保し、市民社会を発展させるための措置が積極的に実施されている。
 - ・国連障害者権利条約が批准された。また、「ウ」側のイニシアティブにより、パンデミック期における若者の権利の保護に関する人権理事会（HRC）決議が採択され、対応する条約の起草が行われている。
 - ・また治安の分野において、一連の基本法が採択され、最近、過激主義及びテロリズム対策5か年戦略が承認された。
 - ・ニー・アオンライン国連特別報告者は、「Mehr（慈愛）」作戦の枠内における（シリア、イラク及びアフガニスタンからの）「ウ」国民の帰還、彼らの社会復帰及び再統合のための「ウ」の取組を高く評価した。テロリズム及び過激主義対策における新たなアプローチが特に指摘された。
 - ・会談の中で、緊密な協力の継続、特に、市民社会機構の役割の向上、女性の役割の強化及び若者支援、立法の改善及びその他の分野におけるプログラム及びプロジェクトの実施における技術支援及びサポートの提供に注意が払われた。
 - ・「ウ」と国連機関及び国連人権擁護機関とのパートナーシップの強化を目的とした、一連の国際共同行事を開催することで合意に達した。
- （12月7日付大統領府ウェブサイト）

●ミルジヨーエフ大統領とマゼピン・ウラルケム（Uralchem）取締役会役員兼会長との会談

- ・12月9日、ミルジヨーエフ大統領は、マゼピン・ウラルケム（Uralchem）取締役会役員兼会長と会談を行った。
 - ・露最大のミネラル肥料生産者（であるウラルケム）との互恵的協力の発展について検討された。
 - ・資源基盤の開発を含む窒素、リン及び複合肥料の生産に関する有望な投資プロジェクトの実施に特に注意が払われた。
 - ・科学・技術開発及び専門人材の養成における協力の促進について合意に達した。
- （12月9日付大統領府ウェブサイト）

●ミルジヨーエフ大統領の最高ユーラシア経済評議会定例会合への出席

- ・12月10日、ミルジヨーエフ大統領は、テレビ会議形式の最高ユーラシア経済評議会会合に出席した。
- ・トカエフ・カザフスタン大統領の議長下で開催された会合には、ナザルバエフ同評議会名誉会長兼カザフスタン初代大統領（エルバシ）、プーチン露大統領、ルカシェンコ・ベラルーシ大統領、ジャパロ

フ・キルギス大統領、パシニャン・アルメニア首相、ディアスカネル・キューバ大統領（ユーラシア経済同盟（EAEU）オブザーバー国）及びミヤスニコヴィチ・ユーラシア経済委員会（EEC）委員長が出席した。

・会合のアジェンダには、経済、貿易、産業、運輸、税関管理、デジタル化及びその他の分野における実務的な協力を含む、EAEUにおける互恵的協力のさらなる発展及び統合プロセスの深化が含まれていた。

・ミルジヨーエフ大統領は、スピーチの冒頭で、カザフスタンがEAEU議長国としての成功をおさめ、EAEUの枠内において同国のイニシアティブにより重要な決定が採択され、ウズベキスタンとEAEUとの建設的な協力の深化を目的とした共同行事が支援された旨特に指摘した。

・「ウ」がEAEUオブザーバー国として参加した1年間で、3カ年措置計画の規定を履行する一環で、EAEUの様々な機構、特にユーラシア経済委員会（EEC）との効果的な作業が促進された。

・国内法とEAEUの規範の調整は、主に標準化及び対外貿易の非関税規制措置の分野において一貫して実施されている。「ウ」は、デジタルプラットフォーム「COVID-free Travel」に参加した。ユーラシア開発銀行（EDB）への参加プロセスが開始された。

・現在の様々な課題にもかかわらず、困難な状況に適応し、新たな「成長点」を成功裡に見つけられている旨強調された。「ウ」のEAEU諸国との貿易額は、本年初から30%増加した。また、2019年と比較して、貿易額は11%増加した。

・ミルジヨーエフ大統領は、共同の解決策を必要とする最も喫緊の課題を指摘した。

・同大統領は、経済関係の持続可能な発展を確保するためにアプローチの足並みをさらに揃える必要性を指摘し、相互貿易における障壁及び制限を撤廃する重要性を指摘した。これに関連し、EAEU諸国との貿易額を増やすための最も良い条件を創出するためのアプローチ及びメカニズムを共同で策定する用意がある旨表明された。

・同大統領は、産業協力を深めることが喫緊であると改めて強調し、EAEUの枠内の産業化オンラインマップの作成への参加などを通して、この協力を体系的に促進することを提案した。

・同大統領は、新たな輸送回廊の創設を目的としたプロジェクトをより積極的に推進することを呼びかけた。これは、「ウ」の輸送能力の強化に資する。

・貨物輸送を追跡するためのナビゲーションツールの導入プログラムに「ウ」が参加する可能性が指摘された。EAEUの物流チェーンを発展させるデジタルエコシステムを創出するというイニシアティブが支持された。

・出席者らは、世界的な気候アジェンダを考慮に入れて、「グリーン」エネルギープロジェクトの実施における取組を結集する必要性に注意を払った。これに関連し、同大統領は、「ウ」がハイレベル作業部会の活動に参加する用意がある旨述べ、「グリーン」開発の分野における措置計画を同部会の枠内で承認することを提案した。

・IT分野における経験の共有及びビジネスパートナーシップの発展の重要性が強調され、これに関連し、次回のユーラシアデジタルフォーラムを「ウ」で開催することが提案された。

・ユーラシア地域における喫緊のイニシアティブ及び協力プログラムの実施にEAEUオブザーバー国をより積極的に誘致し、科学・技術交流及び人的交流を促進する重要性が指摘された。この目的のために、同大統領は、EAEU開発センターの機会を活用し、オブザーバー国がEAEU理事会及びEEC

機関の活動に参加することを支持した。

・同大統領は、スピーチの最後に、E A E U諸国との互恵的協力を深化させるという「ウ」の確固たるコミットメントを改めて確認した。

(12月10日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・韓国首脳会談

・大統領広報部によると、12月17日、ソウルの韓国大統領官邸「青瓦台」において、ミルジヨーエフ大統領の公式歓迎式典が厳粛に行われた。

・文韓国大統領は、ミルジヨーエフ大統領を歓迎し、韓国がウズベキスタンとの最も幅広い分野の協力をさらに発展させることを重視している旨強調した。

・文大統領は、「本年1月のオンライン(首脳)会談をよく覚えている。これは私にとって本年初の首脳会談であった。本日我々は対面し、過ぎ去る年を送ろうとしている。本年の私の外交日程が貴大統領とともに始まり終わることは特に喜ばしいことである」と述べた。

・文大統領は、「韓国と『ウ』は、特別な戦略的パートナーである。我々は、地球規模の気候変動に対応し、スマートシティ、スマートファーム、ICT及び電気自動車の生産などの有望な分野において協力を発展させ、『ウ』と組む用意がある」と続けた。

・ミルジヨーエフ大統領は、(国賓としての)招待に感謝し、開放性及び相互尊重が、両国が歴史的に築いてきた二国間関係の強固な基盤である旨強調した。

・ミルジヨーエフ大統領は、(両国間の)パートナーシップの長期的な優先順位の再検討が現在必要となっている旨強調した。両国間の協力は、現在の世界経済の課題に完全に対応するものでなければならない。

・会談において、来年の自由貿易協定の締結により、貿易額の増加及び均衡を図ることが可能となる旨の確信が表明された。

・「ウ」経済への韓国の投資額は70億米ドルを超えている。本年は2020年よりも20%多い、3億2,000万米ドルの投資が行われた。資本は、化学、石油化学、繊維産業、建設業、農業における共同プロジェクトの実施に割り当てられている。

・ミルジヨーエフ大統領は、「グリーン」開発、デジタル化、社会保護システムの強化を当面のアジェンダの3つの主要分野として強調した。全ての有望な共同プロジェクト、プログラム及び行動計画は、これらの主要な優先事項に照らして検討されることが提案された。

・ミルジヨーエフ大統領は、「ウ」の人的資本及び天然資源を韓国の先端技術及び知識と組み合わせることにより、世界市場で需要のある製品の生産を発展させるための好ましい基盤を創設することが可能である旨強調した。これに関連し、同大統領は、経済協力増進基金(EDPF)の支援を受けて、タシケント州に半導体及び電子機器を生産するための「ウ」・韓国クラスターを創設することを提案した。同クラスターの敷地には、先端技術分野の科学・教育機関、研究・開発センターが置かれる。

・双方は、「ウ」に共同で設立された繊維テクノパーク及び農業工学センターの活動をあらゆる方法で奨励し発展させるという相互の意思を表明した。

・「ウ」は、「デジタル」経済、人工知能、「スマートシティ」、アウトソーシング、新世代通信及びインターネット技術の発展において韓国が得た成果に対し、実務的な関心を有している。

- ・双方は、保健、就学前教育及び高等教育の分野で大きな進歩を遂げた。昨年からは、タシケントで多面的な小児科病院が運営されており、これは医療分野における初の大規模共同プロジェクトである。
 - ・ミルジヨーエフ大統領は、大学間の革新的な協力を発展させる重要性を強調し、それらの定期的な対話のための恒常的なプラットフォームを創設し、来年、両国の大学学長フォーラムを開催することを提案した。
 - ・会談の中で、ポストパンデミック期における経済成長の原動力の一つに、観光産業がなり得る旨指摘された。「ウ」は、ホテル及びインフラ建設のプロジェクトに韓国企業が参加することを支持する。
 - ・来年、両国は外交関係樹立30周年及び韓国系ディアスポラの「ウ」居住85周年を祝う。
 - ・ミルジヨーエフ大統領は、2022年を「『ウ』と韓国との相互交流年」とし、タシケントにおける韓国人歴史博物館及び韓国文化芸術院附属図書館をアレンジするプロジェクトの実施を提案した。
 - ・世界的及び地域的アジェンダについても意見交換が行われた。
 - ・ミルジヨーエフ大統領は、互恵的協力の有望なプロジェクト及びプログラムを促進するために、議会及び政府レベルにおける対話の新たな効果的なメカニズムを導入することを提案した。
 - ・大統領広報部は、「採択された決定及び合意の重要性の観点から、ミルジヨーエフ大統領の国賓訪問は、歴史的な出来事となり、特別な戦略的パートナーシップ関係をさらに高いレベルに引き上げるための確固たる基盤を築いた」と総括した。
- (12月17日付 Gazeta)

●ミルジヨーエフ大統領と朴炳錫（パク・ビョンソク）韓国国会議長との会談

- ・12月17日、ミルジヨーエフ大統領は、ソウルにおいて朴炳錫（パク・ビョンソク）韓国国会議長と会談を行った。
- ・会談の中で、ミルジヨーエフ大統領の今次訪問の枠組の中で新たな強い弾みを与えられた、ウズベキスタンと韓国との間の特別な戦略的パートナーシップ関係の全面的な発展が満足の意をもって指摘された。生産的な政治対話及び接触は、議会間協力の分野を含む様々なレベルで積極的に行われている。
- ・議会間「友好グループ」は、両国関係を深める上で重要な役割を果たしている。本年6月、議会間「友好グループ」のオンライン会合が行われた。立法に関する問題、行政、市民社会、ジェンダー問題、教育及び地域開発分野における改革に関する経験が引き続き共有されている。
- ・会談の中で、両国の協力をさらに活発化させることについて詳細な意見交換が行われた。
- ・朴議長は、韓国側が「ウ」における電子議会メカニズムの導入支援を含む経験の共有を拡大する用意がある旨表明した。
- ・朴議長は、来年タシケントで開催される女性議長会議に参加することを確認した。
- ・共同プログラム及びプロジェクトを促進する新たな制度的メカニズムを立ち上げるイニシアティブも支持された。
- ・「韓国－中央アジア」協力フォーラムの枠内での緊密な対話を継続するという双方の意欲が確認された。
- ・朴議長は、今後2022年に広く祝われる歴史的な日の行事（外交関係樹立30周年及び韓国系ディアスポラの「ウ」居住85周年）は、両国民間の友好及び相互理解のさらなる深化に資する旨指摘した。
- ・双方は、首脳レベルで達成された合意の履行に対する議会の効果的な監視を確立する重要性を強調し

た。両国議会の代表者らは、このためにあらゆる努力及び機会が動員される旨確約した。

(12月17日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領と韓国の主要企業及び金融機関の代表者らとの会談

・ミルジヨーエフ大統領は、ソウルにおいて、韓国の主要企業及び金融機関のトップらと会談を行った。
・会談において、文勝焜 (Mun Sun Uk) 韓国・産業通商資源部長官、Christopher Khoo 韓国国際貿易協会会長、韓国輸出入銀行、韓国国際協力団 (K O I C A)、「SK Ecoplant」、「Posco」、「Samsung」、「SK Nexilis」、「Youngone」、「KIA Motors」、「K-water」、「KT-Net」など多くの企業の代表が出席した。

・このような配慮及び体系的な作業のおかげで、近年、二国間関係は前例のない新たなレベルに達した。貿易額は倍増し22億米ドルに達した。「ウ」経済への韓国の直接投資総額は70億米ドルを超えた。過去5年間で、「ウ」における韓国資本の企業数は倍増した。現在、当該企業は1,000社以上存在する。韓国企業と協力して、52件の投資プロジェクト(総額90億米ドル以上)が「ウ」で実施されている。

・このような会合を外遊時に行うことが恒例となっている。例えば、2017年のミルジヨーエフ大統領による国賓待遇での訪韓の枠内で、大規模なビジネスフォーラムが開催された。そして、2019年に両国首脳はタシケントにおける共同ビジネスフォーラムに出席した。これらの行事の結果、ビジネスパーソン間の信頼が強化され、貿易・経済及び投資のパートナーシップが活発化した。その結果、多くのプロジェクトが立ち上げられた。ウズベキスタンにおける経済のあらゆる分野に市場メカニズムが導入されるという大きな変化も、協力の拡大に寄与している。共同ビジネスの発展を妨げていた障壁が取り除かれた。

・同大統領は、「『ウ』で始まった変革は不可逆である。新しい『ウ』の開発戦略は、企業家にとって最大限に良い条件を創出し、『ウ』における外国ビジネスのプレゼンスを拡大するための作業を継続することを規定している。我々は、『ウ』の信頼できる友人かつ特別な戦略的パートナーである韓国との、安定し信頼に足りダイナミックに発展する協力を評価し、尊重している」と述べた。

・貿易・経済及び投資分野を含む二国間の体系的な協力が構築された。特別作業部会が活動し、「ウ」投資・対外貿易省内には、韓国との二国間協力の発展を所管する局が設立された。

・同大統領は、韓国企業に対し、新たなブレークスルーをもたらすような、真に大規模な共同イニシアティブを精査するよう呼びかけた。

・韓国のビジネス界の代表者らは、「ウ」で創出された活発なビジネスの条件を高く評価し、投資協力の発展に対する大きな関心を表明した。

・会談では、デジタル化、「グリーン」エネルギー、機械工学、農業、繊維産業、製薬、地質学及びその他の多くの分野における韓国企業との40件の新規プロジェクト(総額50億米ドル以上)の実施について議論された。

・同大統領は、これらの計画を承認し、具体的な期間を定めた対応する「ロードマップ」を作成し採択するよう担当者に指示した。

・同大統領は、「我々の主な目標は、韓国のビジネスが『ウ』で快適になるようにすることである」と強調した。

- ・同大統領は、韓国企業の代表者らに対し、「ウ」を訪問し、外国人投資家のために創出された良い条件を活用するよう呼びかけた。
- ・これにより、同大統領の韓国への国賓訪問は終了し、同大統領はタシケントへ出発した。
(2月18日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・韓国関係を同盟レベルに引き上げることに関するミルジヨーエフ大統領の提案

- ・カミーロフ外相は、ミルジヨーエフ大統領が、ウズベキスタンと韓国の関係を同盟レベルに引き上げることを提案した旨述べた。
- ・同外相は、テレビチャンネル「ウズベキスタン24」のインタビューにおいて、「ミルジヨーエフ大統領は、新たな提案をした。韓国の政府と議会は当該提案を支持した。我々は、戦略的パートナーシップを基礎として、現在まで協力を継続している。我々のパートナーシップは、近年、強化されている。最も重要なことは、我々の関係及び信頼が、ミルジヨーエフ大統領がウズベキスタンと韓国の関係を同盟レベルに引き上げることを提案する段階にまで強化されたことである。」と述べた。
- ・同外相は、そのためには多くのタスクを行う必要があり、実務的な措置が執られる旨強調した。同外相は、「韓国は、ウズベキスタンの地域政策を支持している。韓国は、アフガニスタンに対する人道支援を行い、(アフガニスタンとの)国境を強化する用意がある。このような協力は、同盟レベルの関係の規準にかなう。韓国は、政治関係を新たな水準に引き上げる用意がある旨述べた。」と結論づけた。
(12月20日付 Kun.uz)

●ウズベキスタン・アゼルバイジャン首脳電話会談

- ・12月24日、ミルジヨーエフ大統領とアリエフ・アゼルバイジャン大統領との電話会談が行われた。
- ・ミルジヨーエフ大統領は、アリエフ大統領の健康、安寧及び大きな成功、アゼルバイジャンの兄弟国民の平和及び繁栄を心から祈念し、同大統領の60歳の誕生日を心から祝福した。
- ・両首脳は、両国の戦略的パートナーシップ及び多面的協力の関係の喫緊のアジェンダについて検討した。
- ・貿易・経済関係の発展における前向きなダイナミズムが満足の意をもって指摘された。両国の貿易額が着実に増加し、主要企業の協力が拡大している。今月、バクー市における産業展示会及び合同ビジネス評議会定例会合が成功裏に開催された。二国間の文化・人的交流プログラムの枠内で集中的な交流が継続されている。
- ・両首脳は、機械工学、エネルギー、農業、運輸及び物流分野を含む、優先部門・分野における実務的な協力プロジェクトをできる限り早急に推進する重要性を強調した。
- ・両首脳はまた、国際機関の枠組における地域政策及び協力について意見交換を行った。今後の行事の日程について検討された。
- ・電話会談は、従来どおり温かく、友好的な雰囲気の中で行われた。
(12月24日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領の独立国家共同体(CIS)非公式首脳会合への出席

- ・12月28日、ミルジヨーエフ大統領は、プーチン大統領のイニシアティブによりサンクトペテルブ

ルクで開催された独立国家共同体（C I S）非公式首脳会合に出席した。

・同会合には、アリエフ・アゼルバイジャン大統領、ルカシェンコ・ベラルーシ大統領、トカエフ・カザフスタン大統領、ナザルバエフ・カザフスタン初代大統領（エルバシ）、ジャパロフ・キルギス大統領、ラフモン・タジキスタン大統領、ベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領、パシニャン・アルメニア首相も出席した。

・一年の協力の結果が総括され、来たるべき2022年の優先課題について議論された。地域的及び国際的なアジェンダの喫緊の問題について意見交換が行われた。

・パンデミックの影響を克服し、疫学的安全性を確保する上での緊密な協力を継続するという問題に特に注意が払われた。

・ミルジヨーエフ大統領は、C I Sのさらなる発展の優先事項について述べつつ、政治的、経済的及び人道的という3つの側面における協力を焦点を当てることを提案した。

・C I S空間において本格的な自由貿易圏を形成し、運輸の相互連結性を強化する重要性が指摘された。

・地球規模の気候アジェンダを考慮に入れた、持続可能な「グリーン」開発を目的とした国家プログラム及び戦略の実施における努力を結集する必要性に出席者らの注意が向けられた。

・経済の競争優位性及び相互補完性を活用しつつ、食料安全保障を確保する問題の解決に向けた新たなアプローチを策定する緊急性が強調された。

・近年、ウズベキスタンがC I Sの活動への参画を活発化させていることを指摘する必要がある。「ウ」は40以上の多国間協定に署名し、C I Sの23の産業部門の機関に参加した。昨年（2020年）、「ウ」は初めてC I Sの議長国を務めた。

・2021年、「ウ」とC I S諸国との貿易額は33%増加し、約1,000社以上の合弁企業が設立された。

・ミルジヨーエフ大統領は、発言の最後に、C I Sの枠内における全面的な協力の発展に対する「ウ」の確固たるコミットメントを改めて確認し、会合の出席者及び友好国民に対し来たる新年を祝福した。

・これにより、ミルジヨーエフ大統領のサンクトペテルブルクへの実務訪問が終了し、同大統領はタシケントへ戻った。

（12月28日付大統領府ウェブサイト）

【外政】

●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣の訪韓結果

・洪楠基（ホン・ナムギ）韓国副首相兼企画財政部長官との会談

（1）11月26日、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、洪楠基（ホン・ナムギ）韓国副首相兼企画財政部長官と会談を行った。

（2）会談の中で、両副首相は、両国自由貿易協定の締結プロセスを加速化することで合意した。

（3）両国間の投資、貿易・経済及び文化・人的交流協力の着実かつ前向きなダイナミズムが指摘された。本年初より、「ウ」の対韓輸出額は前年同期比で9%増加し、韓国による「ウ」経済への直接投資総額は70億米ドルを超えた。「ウ」側は、2023年までに「ウ」、カザフスタン及びトルクメニスタンとの貿易額を100億米ドルに到達させることを目指す韓国政府の「新北方政策」を支持し、同イニシアティブの枠内で新たなプロジェクト及びプログラムを実施する用意がある旨表明した。

(4) ミルジヨーエフ大統領の(年内の)訪韓準備のための措置が個別に議論された。新たな投資及び貿易協定の実施に関する提案を策定するために、両国省庁間の協力を活発化させることで合意した。

(5) 財政及び技術協力の加速化について特に注意が払われた。(韓国輸出入銀行傘下の)対外経済協力基金(EDCF)と共同で実施している製薬クラスター、化学技術センター、成人を対象とした総合病院、腫瘍学病院及び医科大学などを含む医療クラスターのプロジェクトの現状が検討された。韓国国際協力団(KOICA)との協力が成功裏に行われた旨指摘された。KOICAの支援の下、「ウ」において130件以上のプロジェクト(3,200万米ドル)が実施され、韓国において2,000人以上の「ウ」人専門家を対象としたインターンシップが行われた。2022年~2024年のKOICAとの新たな協力プログラムの策定に関する問題が議論された。両副首相は、次回の(ミルジヨーエフ大統領による韓国への)首脳訪問時における署名を目的として文書を調整することで合意した。

(6) また、経済協力増進基金(EDPF)との協力を拡大することで合意に達した。電気工学、バイオ医薬品、インフラ開発及びその他の分野における革新的なプロジェクト提案を策定し、最も有望なハイテクプロジェクトを特定することを目的とした、同基金及びウズベキスタン投資・対外貿易省の代表者及び専門家から構成される二国間作業部会を設立することで合意した。

(7) 会談の結果、両副首相は、政府間レベルの定期的な交流を継続することで合意した(注:12月2日にも、両副首相によるテレビ会談が行われ、主にミルジヨーエフ大統領の訪韓準備について議論された)。

・Kim San Hee 韓国国会副議長との会談

(1) ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、韓国訪問中、Kim San Hee 韓国国会副議長と会談を行った。

(2) 「ウ」側は、「新北方政策」及び「韓国-中央アジア」協力フォーラムの枠内で二国間及び多国間プロジェクトを実施する用意がある旨表明した。

(3) 会談の結果、共同イニシアティブ及び協力プログラムを推進する上で相乗効果を発揮するために、両国議会及び政府間協力をさらに強化することで合意に達した。

・第11回ウズベキスタン・韓国貿易・経済協力政府間委員会会合

(1) 11月25日、ソウル市において、第11回ウズベキスタン・韓国貿易・経済協力政府間委員会会合が開催された。同会合の共同議長は、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣及び文勝煜(Mun Sun Uk)韓国・産業通商資源部長官が務めた。

(2) 投資協力のさらなる拡大、両国自由貿易協定草案の策定の加速化、「ウ」の世界貿易機関(WTO)への加盟に向けた協議の活発化、農産物の検疫分野における協力、投資及びエネルギープロジェクトの実施、産業連携の確立、農業、保健及び貿易分野におけるイノベーションテクノロジーの導入、地質調査、鉱業、冶金及び繊維産業分野における協力の発展に関する一連の提案がなされ、包括的に検討された。

(3) 会合の結果、達成された主な合意及び二国間の多面的協力のさらなる深化のメカニズムを反映した議定書が署名された。

・ウズベキスタン・韓国ビジネス円卓会議

(1) ソウルにおいて、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣が率いる「ウ」政府代表団、並びに韓国の大企業及び国営企業の代表者が出席する円卓会議が開催された。

(2) 会議には、サムスングループ、起亜自動車 (KIA Motors)、LG Corporation、POSCO Group、現代自動車 (Hyundai Motor Group)、ロッテグループ、Korea Telecom、韓国石油公社 (Korea National Oil Corporation) などの代表者ら、並びに韓国国際貿易協会 (KITA) 及び韓国・ウズベキスタンビジネス協会 (KUBA) の代表者らが出席した。

(3) 円卓会議において、両国経済界間の直接的関係を確立するための共同イニシアティブの実施を念頭に置いた、KITA との協力が合意された。このイニシアティブの一つとして、近い将来、両国ビジネスフォーラムが開催される予定である。

(1 1 月 2 5 日及び 2 6 日付投資・対外貿易省ウェブサイト)

●カミーロフ外相の第 28 回欧州安全保障協力機構 (OSCE) 外相会合への出席

・ 1 2 月 2 日、ストックホルム市において、第 28 回欧州安全保障協力機構 (OSCE) 外相会合が開催され、カミーロフ外相が出席した。

・ スウェーデンの議長国下で行われた同会合において、軍事・政治、経済・環境及び人間的側面における OSCE 空間の協力の喫緊の問題が議論された。

・ カミーロフ外相は、スピーチの中で、出席者らに対し、ウズベキスタンで行われている民主的改革、国民の人権及び自由の保護、法の支配の確保のための措置について説明した。

・ 安全保障及び持続可能な発展の分野における技術的支援を提供するためのプロジェクト等の枠内で、「ウ」と OSCE との間の協力の前向きなダイナミズムが指摘された。「ウ」側からは、共同作業を継続し、あらゆる分野で求められるプログラムをバランスよく増やす用意がある旨強調された。

・ OSCE の活動における経済的及び環境的要素を強化する重要性が指摘された。これは、包括的安全保障のコンセプトのより完全な実施に寄与する。これに関連し、相互貿易の拡大、産業協力の深化、農業分野への新技術の導入、自然保護及び生物多様性保全における協力の活発化のために足並みを揃えた取組を行う重要性が指摘された。

・ OSCE のパートナー国であるアフガニスタンの情勢に特に注意が払われた。カミーロフ外相は、同国の人道的大惨事を回避するために、必要な支援を同国民に提供するために緊急措置を取るよう呼びかけた。

(1 2 月 2 日付外務省ウェブサイト)

●ウズベキスタン・ハンガリー外相会談

・ 1 2 月 2 日、ストックホルム市において、カミーロフ外相は、シーヤールトー・ハンガリー外相と会談を行った。

・ 二国間関係の喫緊の問題、政治、貿易・経済、文化・人的交流分野においてこれまでに達成された合意の実施状況及び「ヴィシエグラード・グループ (V4) - 中央アジア」形式の枠組内等での来たるべき会合の日程が検討された。

・ 2022 年に、ウズベキスタンとハンガリーの外交関係樹立 30 周年を記念した一連の共同行事を開催することで合意に達した。

(1 2 月 3 日付外務省ウェブサイト)

●カミーロフ外相とアン・リンデOSCE議長兼スウェーデン外相との会談

・12月3日、ストックホルム市を実務訪問しているカミーロフ外相は、アン・リンデ欧州安全保障協力機構（OSCE）議長兼スウェーデン外相と会談を行った。

・カミーロフ外相は、OSCE議長国としての成功についてスウェーデン側を祝福しつつ、OSCEとの建設的かつ互恵的な対話を拡大するというウズベキスタンのコミットメントを強調した。

・政治・外交、貿易・経済、文化・人的交流及びその他の分野の二国間関係の発展における双方の関心が確認された。外務省間政務協議定例会合の開催を含む、来たるべき行事の日程が検討された。

・ストックホルム市で計画されているウズベキスタン大使館の開設は、二国間協力の著しい活性化に寄与する旨強調された。

・双方は、アフガニタン情勢に関する意見及び評価の交換を行った。

（12月3日付外務省ウェブサイト）

●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣のカザフスタン訪問結果

・マミン・カザフスタン首相との会談

（1）12月4日、ヌルスルタン市で、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、マミン・カザフスタン首相と会談を行った。

（2）第3回地域間協カフォーラム及び第19回二国間協力政府間委員会会合を含む、両国首脳会談を控えた共同行事の成果が強調された。

（3）会談の結果、共同イニシアティブ及び協力プログラムを推進するための協力のさらなる措置が特定された。

・スクリヤール・カザフスタン副首相との会談

（1）ヌルスルタン市において、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、スクリヤール・カザフスタン副首相と会談を行った。

（2）ミルジヨーエフ大統領のカザフスタン訪問の準備について検討された。

（3）会談の結果、達成された合意の実施及び互恵的関係の新たな分野の特定に向けたさらなる協力のフォーマットが合意された。

・スルタノフ・カザフスタン貿易統合大臣との会談

（1）ヌルスルタン市において、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、スルタノフ・カザフスタン貿易統合大臣と会談を行った。

（2）今後5年間で、二国間貿易額を100億米ドルに到達させるという課題を達成するためのさらなる措置が特定された。既存の貿易障壁を撤廃し、両国の運輸、物流及び輸送能力を向上させるための作業を継続することで合意した。これに関連し、両国を結ぶ道路及び鉄道インフラの開発に関する優先プロジェクトについて議論された。

（3）農産物及び食品を定期的かつ迅速に供給するためにウズベキスタンと露との間で確立された「アグロエクスプレス」物流プロジェクトにカザフスタンが参画する見通しについて議論された。双方は、認証手続き、税関手続き、出入国手続きの調整に関する合同作業部会を設立することで合意した。

（4）水利用及び節水技術の導入、アラル海地域の生態学的バランスの回復及びアラル海の枯渇により引き起こされた課題の克服について個別に言及された。アジェンダのその他の問題として、2022年

にヌクス市で開催される第1回国際アラル海地域フォーラムへのカザフスタンの参加の見通しも検討された。

(5) 会談の結果、検討された二国間協力の問題について個別に合意がなされた。

・第4回ウズベキスタン・カザフスタン・ビジネスフォーラム及びウズベキスタン・カザフスタン・ビジネス評議会拡大会合への出席

(1) ヌルスルタン市で、第4回ウズベキスタン・カザフスタン・ビジネスフォーラム及びウズベキスタン・カザフスタン・ビジネス評議会拡大会合が開催された。

(2) 開会式には、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣及びスクリャール・カザフスタン副首相が出席した。

(3) フォーラム内で、両国国境地域における国際産業協力センターの設立が強調された。同センターには、必要な生産インフラが整備される。

(4) 今次フォーラムの結果、共同プロジェクト及びイニシアティブを実施するための総額59億米ドルの貿易及び二国間合意が署名された。

(12月4日付投資・対外貿易省ウェブサイト)

●第2回「伊ー中央アジア」閣僚会合の開催

・12月8日、タシケント市において、ウズベキスタンの議長国下で、「伊ー中央アジア」形式の第2回閣僚会合が開催された。

・会合には、中央アジア諸国、伊及びEUの外相、経済及び金融機関、保健機関の代表者が出席した。

・代表団は、中央アジア諸国と伊との間の協力の現状及び見通しを議論し、現代の課題及び脅威に共同で対応する重要性を指摘した。地域における環境問題の解決、過激主義及びテロリズムの国境を跨いだ脅威の防止、及び国民間の調和、民族友好及び兄弟関係の強化の方途について分析がなされた。

・分科会の枠内で、地域の経済連携の改善、貿易、投資、運輸及び輸送分野における協力の効率性を向上させるメカニズムが検討された。エネルギー部門、アグリビジネス及び産業機器分野における共同プロジェクトの実施に特に注意が払われた。パンデミック対策及びその影響を乗り越えるための措置について意見交換が行われ、保健分野における共同の取組の優先分野が示された。

・当該会合の枠内で、「中央アジアと伊との間の科学協力の発展の現状及び見通し」をテーマとする「円卓会議」も開催され、中央アジア及び伊の主要な専門家が出席した。出席者らは、地域行政、持続可能かつ包摂的な開発、文化遺産の保護及び推進、科学・学術交流の活発化のコンセプトモデルについて精査した。

(12月8日付外務省ウェブサイト)

●ウズベキスタン・伊外相会談

・12月8日、カミーロフ外相は、「伊ー中央アジア」形式の第2回閣僚会合に出席するためにタシケント市を訪問したディ・マイオ伊外務・国際協力相と会談を行った。

・両外相は第2回閣僚会合の成果を指摘し、当該フォーマットが、政治、貿易・経済、文化・人的交流、教育及び科学分野における伊と地域諸国との間の多面的かつ持続可能な協力を発展させるための大きなポテンシャルを有していると強調した。

- ・会談では、2022年のタシケント市における貿易、経済及び産業協力及び輸出信用に関する第7回「ウ」・伊政府間作業部会会合を含む、二国間の共同行事の開催に関する提案が検討された。
 - ・議会間対話のさらなる強化、特にサマルカンド州とロンバルディア州との間の地域間協力の活発化、法的基盤の拡大、両国の観光客数の増加に向け双方に準備ができていることが表明された。
 - ・共同行事の開催を通して、2022年に「ウ」と伊との間の外交関係樹立30周年を祝うことに特に注意が払われた。
 - ・会談において、国際機関の枠組における両国の協力についても検討された。
- (12月8日付外務省ウェブサイト)

●ウズベキスタン・キルギス外相会談

- ・12月8日、カミーロフ外相は、「伊－中央アジア」形式の閣僚会合に出席するためにタシケント市を訪問したカザクバエフ・キルギス外相と会談を行った。
 - ・会談の中で、政治・外交、国境、貿易・経済、エネルギー及び文化・人的交流分野における両国関係の喫緊の問題が議論された。
 - ・これまでに達成された合意の実施状況及び様々なレベルの今後の行事の日程が検討された。
 - ・アフガニスタンの現状を含む、国際及び地域情勢について意見交換が行われた。
- (12月8日付外務省ウェブサイト)

●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣のUAE訪問結果

- ・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥームUAE副大統領兼ドバイ首長との会談
 - (1) ドバイ市において、「2020年ドバイ国際博覧会」の枠内で、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣が、ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥームUAE副大統領兼ドバイ首長と会談を行った。
 - (2) 双方は、UAE内閣担当・未来省の支援の下、行政改善プログラムが成功裏に実施されている旨強調した。「Young Leaders Program」の開始は、同分野における協力の拡大の新たな一歩として高く評価された。
 - (3) 両国の互恵的パートナーシップをさらに強化するというコミットメントが表明され、共同で実施する優先課題が特定された。
- ・マンスール・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーンUAE副首相兼大統領担当大臣との会談
 - (1) 12月7日、ドバイ市において、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、マンスール・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーンUAE副首相兼大統領担当大臣と会談を行った。
 - (2) 2019年3月のミルジヨーエフ大統領によるUAE訪問で達成された合意の実施状況が検討された。これに関連し、課題を解決する上での既存の問題及びさらなる協力のメカニズムが検討された。
 - (3) 双方は、投資協力について議論し、UAEによる対ウズベキスタン投資額が増加し、UAE企業によるプロジェクトが成功裏に実施されている旨指摘した。特に、Masdar社は、本年8月に「ウ」初の太陽光発電所を稼働させるとともに、これまでに3か所の新たな太陽光発電所の建設プロジェクトを落札した(スルハンダリア州シェラバード地区太陽光発電所(発電容量457MW)、サマルカンド州太陽光発電所(発電容量220MW)、ジザク州太陽光発電所(発電容量220MW))。「ウ」にお

る Masdar 社の総ポートフォリオは 20 億米ドルを超え、建設中の発電所の発電容量は 2.5 GW である。

(4) アブダビ開発基金との協力も進んでおり、「ウ」における中小企業の支援プログラム及び教育分野のプロジェクトが成功裏に実施されている旨指摘された。同基金の協力により設立された投資企業が活発に活動しており、特に観光分野の大規模プロジェクトが実施されている。また、14 件の有望な投資プロジェクトのポートフォリオ（総額 5 億米ドル）が策定されている。

(5) 会談の結果、双方は、両国関係のさらなる強化、貿易及び投資協力の多角化、UAE の主要企業による「ウ」におけるプロジェクトの実施のための新たな投資家を誘致するコミットメントを表明した。
・ムハンマド・ビン・アブドゥラー・アル・ガルガーウィー UAE 内閣担当・未来大臣との会談

(1) 12 月 8 日、ドバイ市において、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、「2020 年ドバイ国際博覧会」の枠内で、ムハンマド・ビン・アブドゥラー・アル・ガルガーウィー UAE 内閣担当・未来大臣と会談を行った。

(2) 「One Million Uzbek Coders」、「Government Accelerators」及び「Safety City」などのプロジェクト、並びに国家開発戦略の策定、保険プログラムの改善、公共サービスのデジタル化、イノベーションの導入、産業のポテンシャルの開発に関する協力を含む全 25 分野のプログラムで達成された成果が詳細に検討された。

(3) なお、過去 2 年間のプログラムの枠内で、124 回のテーマ別のセミナーが開催され、プログラムの 25 分野に関する約 100 回の行事が実施され、両国で開催された特別セミナーに 5,000 人以上の専門家が参加した。

(4) 両国の代表団が参加し、「Young Leaders Program」が立ち上げられた。同プロジェクトのコンセプトでは、優秀な人材の確保を目的とした、「ウ」の各省庁の若手専門職員を対象とする UAE の省庁におけるトレーニング及びインターシップの実施が想定されている。トレーニングは、対面及びオンライン形式を組み合わせ、2 か月半行われる。研修内容は、投資及び財務管理、企業家支援、輸出振興などである。

(5) 会談の結果、両国の互恵的パートナーシップの深化に向けて共に取り組むことで合意に達した。

(12 月 7 日及び 9 日付投資・対外貿易省ウェブサイト)

●トランス・アフガン鉄道プロジェクトに関する会談の実施

・12 月 6～7 日、タシケントにおいて、「テルメズ＝マザーリシャリーフ＝ペシャワール」鉄道線の設計及び建設に関する省庁の代表者の参加の下、三者（注：ウズベキスタン・アフガニスタン・パキスタン）会談及び多国間（露・カザフスタン・ウズベキスタン・アフガニスタン・パキスタン）会談が行われた。

・参加者は、善隣関係の強化、国際輸送路の分野における地域間協力の発展及び様々な経済部門における協力の深化に対する当該プロジェクトの重要性を指摘した。

・会談の結果、参加者は、提案された鉄道線を近いうちに現地において精査し、作業部会会合を定期的で開催し、プレ F S（予備調査）の策定後に国際金融機関を当該プロジェクトに参加させることについて合意した。

(12 月 9 日付 UzDaily)

●カミーロフ外相とルー米国務次官補（南アジア・中央アジア担当）との会談

・12月13日、カミーロフ外相は、第1回ウズベキスタン・米戦略的パートナーシップ対話会合に出席するためにタシケント市を訪問した、ルー米国務次官補（南アジア・中央アジア担当）（Mr. Donald Lu）と会談を行った。

・会談の中で、二国間協力、国際及び地域の政治の喫緊の問題が検討された。双方は、相互尊重及び相互利益の考慮の原則に基づく建設的な対話を積極的に発展させる用意がある旨表明した。

・米側は、新しい「ウ」における民主的変革及び社会・経済改革のプログラムへの支持を表明した。

・ルー米国務次官補は、アフガニスタン国民へ支援を提供し、様々な分野におけるプロジェクトを推進するための「ウ」の取組を高く評価した。

（12月13日付外務省ウェブサイト）

●第1回ウズベキスタン・米戦略的パートナーシップ対話会合

・12月13日、第1回ウズベキスタン・米戦略的パートナーシップ対話会合がタシケント市で行われた。

・両国の代表団は、カミーロフ外相とルー米国務次官補（南アジア・中央アジア担当）が率いた。

・政治及び外交、経済及び開発、安全保障、人間的側面、文化・人的交流関係分野における二国間及び地域的アジェンダの喫緊の問題、国際機関及び金融機関を通じた接触について意見交換が行われた。

・「ウ」の独立、主権及び領土保全を支持する米国の不変かつ確固たる立場が改めて確認された。経済の自由化、人権及び自由の保護、民主的制度及び市民社会の発展のために「ウ」で実施されている変革を米国政府が積極的に支援する用意がある旨強調された。

・双方は、「C5+1」メカニズムの枠内における協力を活発化させ、重要な成果を達成するために同フォーマットを実務的なレベルに引き上げることを支持した。

・両国代表団は、テロリズム及び過激主義の脅威への対抗、アフガニスタンにおける和平プロセスの推進、同国の紛争後の復興及び同国民への人道支援の提供のための共同の取組を継続する必要性を指摘した。

・具体的な分野に関する両国の戦略的パートナーシップの制度化、投資の相互保護及び二重課税の回避に関する協定の締結のための交渉プロセスの開始についての提案が検討された。

（12月13日付外務省ウェブサイト）

●ウズベキスタン・パキスタン外相電話会談

・12月15日、カミーロフ外相とクレシ・パキスタン外相との電話会談が行われた。

・会談の中で、両国の多面的な戦略的パートナーシップの現状及び発展の見通しについて議論された。

・国連、イスラム協力機構（OIC）及びその他の国際機構の枠内における両国の相互協力に特に注意が払われた。

・様々なレベルにおける今後の接触の日程が検討された。

（12月15日付外務省ウェブサイト）

●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣の訪韓結果（その2）

・ 洪楠基（ホン・ナムギ）韓国副首相兼企画財政部長官との会談

（１）ソウル市において、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、洪楠基（ホン・ナムギ）韓国副首相兼企画財政部長官と会談を行った。

（２）会談の中で、韓国国際協力団（ＫＯＩＣＡ）と２０２２年から２０２４年までの新たな協力プログラムが署名されたことが指摘された。

（３）双方は、自由貿易協定の締結に向けたプロセスの前向きな動向を歓迎し、このステップが両国間の貿易・経済協力のさらなる発展に大きな推進力を与える旨強調した。

（４）会談の最後に、二国間協力の深化のための新たな建設的な提案を行うとのコミットメントが表明された。

・ Sohn Hyuk-Sang 韓国国際協力団（ＫＯＩＣＡ）総裁との会談

（１）ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、Sohn Hyuk-Sang 韓国国際協力団（ＫＯＩＣＡ）総裁と会談を行った。

（２）ＫＯＩＣＡウズベキスタン事務所が開設されてから、これまでに３０件以上（１億３，０００万米ドル）のプロジェクトが実施され、韓国において２，０００人以上のウズベク人専門家の研修が行われた旨指摘された。また、保健、教育、情報技術、公益事業、農業及び水利、エネルギー、運輸及びその他の分野における６００人以上のＫＯＩＣＡボランティア専門家が「ウ」において活動を行った。

（３）本年開始された教育、情報・通信分野、生態学及び医療分野における無償資金プロジェクトの実施状況、２０１９年４月の文韓国大統領による「ウ」への国賓訪問の際に署名された、ＫＯＩＣＡによる無償資金（７，２００万米ドル）の供与を盛り込んだ２０２０年から２０２２年の中期協力プログラムの実施において達成された成果が議論された。

（４）会談の中で、就学前教育及び職業教育、デジタル化、化学、企業家の育成、エコロジー、緑化、砂漠化対策及び保健分野における新たな無償資金プロジェクトの実施を盛り込んだ、ＫＯＩＣＡとの２０２２年から２０２４年の協力プログラムが合意された。

（５）会談の結果、双方は、合意されたプロジェクト及びプログラムの推進を加速化するための緊密な協力を継続することで合意した。

（１２月１６日付投資・対外貿易省ウェブサイト）

●マザーリシャリーフ空港の復旧完了時期に関するイルガーシェフ・アフガニスタン担当大統領特別代表の発言

・イルガーシェフ・アフガニスタン担当大統領特別代表は、ウズベキスタンの専門家によって、アフガニスタンのマザーリシャリーフ空港の復旧を２０２２年初めに完了し得る旨記者に述べた。

・同代表は、ブリーフの中で、マザーリシャリーフ空港の復旧が完了する時期に関する質問に回答しつつ、「我々の専門家は、そこで大きなグループで働いている。多くの作業が既になされた。作業は最長であと１カ月継続すると思う。」と述べた。

・同代表は、ウズベキスタンの専門家が、航空ナビゲーション機器及び気象機器の修理、滑走路の再建、空港の電力供給の復旧といういくつかの分野に関する作業を現在同時並行的に行っている旨明確にした。

（１２月１７日付 Gazeta）

●ウズベキスタン代表団とクレーシ・パキスタン外相との会談

- ・12月18日、イスラマバード市において、イスラム協力機構（OIC）臨時外相評議会に出席するウズベキスタン代表団とクレーシ・パキスタン外相との会談が行われた。
 - ・会談の中で、特にアフガニスタン国民への人道支援及びその他の支援の提供における、同国方面の協力を拡大するための両国の取組について議論された。
 - ・パキスタン側は、アフガニスタンに緊急人道支援を提供するために、テルメズ市に物流拠点（ハブ）を設立するという「ウ」のイニシアティブを歓迎した。
 - ・双方は、特にOICの枠内で、アフガニスタン問題に関する二国間協議を継続することに対する相互の関心を表明した。
 - ・会談の中で、二国間関係及び国際機関の枠内における協力についても検討された。
- （12月19日付外務省ウェブサイト）

●ウズベキスタン代表団とモッタキ・アフガニスタン「外相」代行との会談

- ・12月18日、イスラマバード市において、イスラム協力機構（OIC）臨時外相評議会に出席するウズベキスタン代表団とモッタキ・アフガニスタン「外相」代行との会談が行われた。
 - ・会談の中で、双方は、二国間関係の現状、特に貿易・経済協力分野におけるその発展の見通しについて議論した。
 - ・アフガニスタン側は、同国の社会・経済インフラの復旧及び同国における運輸及びエネルギー部門の大規模インフラプロジェクトの実施に対して行われた支援に対し、ミルジヨーエフ大統領に心からの謝意を表明した。
 - ・モッタキ「外相」代行は、アフガニスタン国民への緊急人道支援の提供を目的とした、テルメズ市に運輸・物流拠点（ハブ）を設立するという「ウ」のイニシアティブを深謝の意をもって受け止めた。
 - ・兄弟である「ウ」のこれらの行動は、両国及び両国民の歴史的及び精神的な親密性を改めて象徴する旨指摘された。
 - ・アフガニスタン側が同国の女性及び少数民族の権利保護に関しこれまで行った国際的な公約及び義務を果たす必要性も強調された。
- （12月19日付外務省ウェブサイト）

●カミーロフ外相の第3回「印＋中央アジア」外相会合への出席

- ・12月19日、カミーロフ外相は、デリー市での第3回「印＋中央アジア」外相会合に出席した。
- ・会合の出席者らは、政治、経済、デジタル化及び文化・人的交流分野における印と中央アジア諸国との関係をさらに強化するという喫緊の問題を検討した。地域協力の現在のダイナミズム、安定への脅威及び挑戦に共同で対抗するための措置について意見交換が行われた。
- ・カミーロフ外相は、スピーチの中で、「印・中央アジア」形式の協力の潜在力をさらに完全に開花させ、持続可能な貿易・経済及び運輸・交通関係を形成し、印及び中央アジア市場への製品の相互アクセスのための「緑の回廊」を創設し、IT専門家プラットフォームを設立することなどを通じた、両地域の相互連結性強化の重要性を指摘した。

- ・地域全体の発展のための提案を策定するために、シンクタンクプラットフォーム「印・中央アジアシンクタンクフォーラム」を設立し、同フォーマットの参加国においてそれぞれ輪番で毎年行事を行うことが提案された。
- ・アフガニスタン情勢に特に注意が払われた。同国の国際的な孤立を防ぐために、同国に関する紛争後の戦略を策定する必要性が強調された。
- ・パネルセッションの枠内で、アフガニスタンへの人道支援及び社会・経済復興への支援を提供する問題について議論された。
- ・会合の結果、共同声明が採択された。
(12月19日付外務省ウェブサイト)

●ウズベキスタン・印外相会談

- ・12月19日、カミーロフ外相は、デリー市において、ジャイシャンカル印外相と会談を行った。
- ・両外相は、政治、貿易・経済、投資、文化・人的交流及びその他の分野における協力の優先課題について意見交換を行った。
- ・両外相は、両国首脳の定期的な対話の結果である、二国間関係の新たなダイナミズムを満足の意をもって指摘した。
- ・両外相は、様々なレベルにおける今後の会合の日程を検討した。両国外務省間の政務協議の定例会合を2022年にデリーで開催することが提案された。
- ・国連、上海協力機構（SCO）及びその他の国際機関の枠内での両国の建設的な協力が満足の意をもって指摘された。
- ・アフガニスタンへの人道支援の提供を含む、同国の現状について詳細な意見交換が行われた。
(12月19日付外務省ウェブサイト)

●ウズベキスタン代表団のイスラム協力機構（OIC）臨時外相評議会会合への出席

- ・12月19日、（イルガーシェフ・アフガニスタン問題大統領特別代表を含む、）ウズベキスタン代表団は、イスラマバード市で開催された、アフガニスタンの現状をテーマとするイスラム協力機構（OIC）臨時外相評議会会合に出席した。
- ・「ウ」側は、発言の中で、「ウ」がアフガニスタン新「政権」に対して行っている政策の主要な側面及び同国と建設的な対話を推進する必要性に特に言及した。
- ・地域諸国及びその他の国々にとっての潜在的な脅威として、様々なテロ勢力により利用され得る、アフガニスタンにおける空白が再び生み出されることを阻止することに主要な注意が払われた。
- ・OIC加盟国等からアフガニスタンへの人道支援を早期に提供し、同国を地域の相互連結性及び統合のプロセスへ積極的に引き込むことに主な力点が当てられた。
- ・会合の出席者らは、アフガニスタンにおける深刻な人道危機に懸念を表明し、世界の他の国に対し（同国の）国外の金融資産の凍結を解除し、同国民に人道支援を提供するよう呼びかけた。これは、同国における大規模な飢餓及び同国の社会・経済危機の更なる激化を予防することに寄与する。
- ・会合の出席者はまた、アフガニスタンの新「政権」が、幅広い代表性に基づく包括的な政府を樹立することに関する取決め及び国際的な公約を履行し、同国の女性及び少数民族の権利を尊重する必要性を

支持した。

- ・ 会合の結果、アフガニスタンの人道状況に関するO I C加盟国の共同声明が採択された。
- ・ 会合の出席者らはまた、ミルジヨーエフ大統領による、アフガニスタンに人道支援を提供するための物流拠点（ハブ）をテルメズ市に創設するというイニシアティブを支持した。これは、共同声明文に別項として盛り込まれた。

（12月19日付外務省ウェブサイト）

●ウズベキスタンが2022年春にトランス・アフガン鉄道の建設を開始することを約束

- ・ ウズベキスタンは、2022年春にトランス・アフガン鉄道の建設を開始する。同鉄道は長さ573キロ、建設費用は48億ドルと見積もられている。
- ・ （12月19日にイスラマバードで開催されたイスラム協力機構（O I C）臨時外相評議会の枠内で、）マフカーモフ運輸大臣は、モッタキ・アフガニスタン「外相」代行に対し、トランス・アフガン鉄道の建設作業を来年春に開始することを約束した。
- ・ 同時に、イルガーシェフ・アフガニスタン問題大統領特別代表は、モッタキ「外相」代行をタシケントに招待し、同「外相」代行はそれを受諾した。
- ・ また、ウズベキスタンは、鉄道業務に従事するアフガニスタン人職員を訓練する意向である。
- ・ ハクマル（Mr. Ahmad Wail Haqmal）タリバーン「政府」財務省報道官は、「これは大プロジェクトである。全ての国が同プロジェクトで役割を担っている。各国は鉄道建設プロジェクトの実施においてそれぞれの役割を果たし、資金を割り当てる。技術的な問題はまだ確定してない。近い内に、（アフガニスタン）代表団が『ウ』を訪問し、技術的な問題を議論する」と述べた。

（12月20日付 Kun.uz 及び Sputnik）

●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣とレザーイー・イラン副大統領（経済担当）とのテレビ会談

- ・ 12月22日、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、レザーイー・イラン副大統領（経済担当）とテレビ会議形式の会談を行った。
- ・ 会談の中で、二国間の経済協力の現状及びその拡大の見通しについて議論された。双方は、最近開催された上海協力機構（SCO）首脳会合及び第15回経済協力機構（ECO）首脳会合における両国首脳会談が、二国間関係をさらに強化するための推進力となったことを指摘するとともに、達成された合意の実施に向けて協力することを表明した。
- ・ 会談において、投資協力分野に注意が払われ、建築資材の生産、建設、農業、漁業、製薬、電気工学、化学及び軽工業における新規プロジェクトを実施するための幅広い機会を強調した。有望な新規プロジェクトの策定及びその実施のためのパートナーを発掘することで合意に達した。
- ・ 相互貿易分野に特に注意が払われた。本年1月から11月の間に、二国間貿易額が74.4%増加したことが満足の意を持って指摘された。双方は、両国の特惠貿易協定の草案に関する共同作業を強化することで合意した。
- ・ 運輸及び物流分野における協力の拡大の見通しにも言及された。
- ・ 近い将来、貿易・経済及び科学・技術協力に関する第14回政府間委員会会合及び両国のビジネスマ

ンの代表者らが参加するビジネスフォーラムなどを含む、一連の二国間行事を開催する件について議論された。

・ 会談の結果、両国間の投資、産業、貿易及び運輸分野における協力を拡大するための「ロードマップ」を策定し採択することで合意に達した。

(12月22日付投資・対外貿易省ウェブサイト)

●ウズベキスタンが人道支援物資をアフガニスタン北部マザーリシャリーフに提供

・ スルハンダリア州当局広報部によると、12月23日、新たな人道支援物資が、ウズベキスタンからアフガニスタンに鉄道で送られた。

・ 63両の貨物列車に載せられた人道支援物資には、食料品、衣類及び石炭が含まれている。当該列車は、バルフ州の州都であるマザーリシャリーフに支援物資を運搬する。同市では、両国の政府関係者が出席する人道支援物資の引き渡し式が行われる。

・ 本年9月、「ウ」は、食料品、医薬品及び衣類を含む1,300トンの人道支援物資をアフガニスタンに送っている。

(12月23日付 Gazeta)

●マザーリシャリーフ市におけるウズベキスタンによる人道支援物資の引き渡し式

・ 12月23日、アフガニスタンのマザーリシャリーフ市において、兄弟であるアフガニスタン国民へのウズベキスタンの人道支援物資の引き渡し式が厳粛に行われた。

・ 小麦粉、米、砂糖、食料品、生活必需品、衣類、繊維製品及び石炭からなる総重量4,000トン以上の当該人道支援は、アフガニスタンに対する「ウ」国民による善意の不変の印である。

・ 当該式典で発言した、シェール・モハンマド・アッバス・スタネクザイ (Mr. Sher Mohammad Abbas Stanikzai) アフガニスタン暫定「政府」外務次官は、アフガニスタン国民を代表して、同国のこの困難な時期に、常に配慮、支援及び連帯が示されたことについて、ミルジヨーエフ大統領に対し深謝の意を表明した。

・ アフガニスタン国民を支援するための呼びかけに最初に応じたのはミルジヨーエフ大統領であり、アフガニスタンの多民族国民が、同大統領の政策をヒューマニズム、兄弟愛及び善隣の真の発露であると見なしている旨特に指摘された。

・ シェール・モハンマド・アッバス・スタネクザイ外務次官は、アフガニスタン国民は、常にミルジヨーエフ大統領の兄弟的な態度を感じているため、同国の新「政権」は、善隣関係を深化させるためにあらゆることを行うとともに、同国領内から「ウ」を含む近隣諸国へのいかなる脅威も決して容認しない旨強調した。

・ クドラットラー・アブ・ハムザ・バルフ州知事 (Mr. Qudratullah Abu Hamza) は、当該人道支援が時宜を得たものであり、冬季におけるアフガニスタン国民にとって特に重要である旨指摘した。同知事の発言によると、これは両国の兄弟民族間の深い歴史的及び精神的つながりを示すさらなる証左である。

・ 当該式典で発言した、ウズベク人の著名な活動家を含むアフガニスタン国民の「代表者」らは、同国民にとって最も困難な時期でさえ彼らの需要及び希望を決して忘れず、いつも同国民の真の友人であり続けたミルジヨーエフ大統領による前例のない支援に心からの謝意を改めて表明した。

・アフガニスタン国民の「代表者」らの発言によると、当該支援は同国における大規模な飢餓、深刻な人道的及び食料危機を実際に予防することに寄与する。

・式典の中で、「ウ」のシェフ達によるチャリティー「ウ」風プロフ（ピラフ）が用意され、全出席者及びアフガニスタン社会の多数の代表者らに振る舞われた。

（12月23日付外務省ウェブサイト）

【内政】

●アルジーエフ第一外務次官の駐中国大使任命及びノロフSCO事務局長の外務次官任命（人事情報）

・アルジーエフ第一外務次官の駐中国大使任命

外務省広報部によると、12月28日付ウズベキスタン最高評議会上院議会決定に従い、ファルホッド・アルジーエフ氏が駐中国ウズベキスタン大使に任命された。（後略）

・ノロフ上海協力機構（SCO）事務局長の外務次官任命

（1）外務省広報部によると、12月30日付ウズベキスタン大統領決定により、ウラジーミル・ノロフ氏が外務次官に任命された。12月31日に、同氏は同省参与会会議で紹介された。

（2）同氏は、2019～2021年にSCO事務局長を務め、それまでは大統領直属戦略地域研究所所長であった。外交上の特命全権大使の階級を有している。ウズベキスタン外務次官、第一外務次官、大統領国家顧問、駐ベルギー大使及びその他の役職を歴任した。

（12月30日及び31日付 Gazeta）

【治安】

●国家保安庁が宗教過激主義組織「ヒズブ・タフリール」の支持者12名を拘束

・国家保安庁広報部によると、12月22日、ウズベキスタン国内で禁止されている宗教過激主義組織「ヒズブ・タフリール」の支持者であるアンディジャン州在住の人物の活動が阻止された。

・以前、「ヒズブ・タフリール」に参加した罪により有罪判決を受け刑期を終えていた「A. A」（1968年生）は、再び犯罪行為に手を染め、同組織の元メンバー11名を犯罪行為に引き入れた。

・同人らは全員「ヒズブ・タフリール」のメンバーであり、有罪判決を受けていた。国家保安庁によると、彼らは政府による社会的、法的及び道徳的支援を受けたにもかかわらず、再び結託しインターネットを通して住民の間に過激主義思想を宣伝し、同組織の拡大を目的とした犯罪行為を行った。

・同人らから、過激主義的内容を含む資料が確認され、所定の法的手続きに基づき押収された。

・刑法の関連条文に基づき、同人らは刑事起訴され、現在、捜査活動が行われている。

（12月24日付 Gazeta）

●国家保安庁によるウズベキスタン各地における薬物押収事案

・カラカルパクスタン共和国、シルダリア州及びナマンガン州国家保安庁総局は、各管轄地域において薬物を押収した。

・カラカルパクスタン共和国における薬物押収事案

（1）同共和国国家保安庁総局職員は、サマルカンド＝ビールーニー間の道路を走行中の「Cobalt」車

をホレズム州「サリモイ」交通検問所において停車させ、車内の取り調べを行った。

(2) 同車に乗っていた同共和国トルトコル地区の住民(1981年生まれ)から「ヘロイン」1キロが発見され、法的手続きに基づき押収された。この「ヘロイン」は、タジキスタンの運び屋によりサマルカンド州ウルグット地区に密輸されたものであった。

・シルダリア州における薬物押収事案

(1) 同州国家保安庁総局及び税関総局職員は、「ハヴァス」地区の住民2名(2000年及び2002年生まれ)をウズベキスタン・タジキスタン国境で取り調べを行ったところ、同人らから「ハシシ」1キロ815グラムが発見され、法的手続きに基づき押収した。

(2) 同人らは、タジキスタンに違法に越境し、同国の知人から薬物を入手し、「ウ」に帰国していた。本件の捜査活動が継続されており、薬物を注文した人物(1985年生まれ)も拘束された。

・ナマンガン州における薬物押収事案

(1) 同州国家保安庁総局職員は、税関総局との共同捜査において、「ウイチ」地区の住民(1979年生まれ)が運転するアンディジャン＝ナマンガン間の道路を走行中の「Nexia」車を「ノリン」交通検問所で停車させた。

(2) 同車の取り調べの結果、「ハシシ」942グラムが発見され、所定の手続きにより押収された。この「ハシシ」は、キルギスの運び屋によりアンディジャン州に持ち込まれたものであった。

・現在、上記事件に関し、関連刑法に基づく刑事起訴に向けた取り調べ活動が行われている。

(12月28日付 Gazeta)

【新型コロナウイルス】

●「オミクロン」株の拡大を受けたウズベキスタンの水際対策の強化

・豪、墺、ベルギー、英、独、デンマーク、エジプト、イスラエル、伊、蘭及びチェコからウズベキスタンに到着するフライトの乗客は、自宅または自費でホテルにおいて10日間隔離を行わなければならない。保健省広報部によると、同決定は、新型コロナウイルスの新たな(変異)株「オミクロン」の拡大を受けて、新型コロナウイルス対策共和国委員会によりなされた。

・上記の国々を含む、「ウ」に到着する全ての者は、到着72時間前に受けた新型コロナウイルスのPCR検査の結果が陰性であることを示す書類を所持しなければならない。

・陰性証明書を所持してない乗客は、空港、鉄道駅及び国境検問所において新型コロナウイルスの迅速検査を受けなければならない。

・なお、以前「Gazeta」は、「ウ」が、12月3日から1月10日まで、香港、ボツワナ、ジンバブエ、レソト、マダガスカル、モザンビーク、ナミビア、エスワティニ、タンザニア及び南アフリカからの航空便を停止する旨報じた。当該国民及び過去14日間の当該国の訪問者は、「ウ」への入国が許可されない。

(12月1日付 Gazeta)

●中国製ワクチン「ZF-UZ-VAC2001」100万回分のウズベキスタンへの到着

・保健省広報部によると、12月11日夜、ZF-UZ-VAC2001 ワクチン100万回分のバッチが中国からタシケントに届けられた。

・イノベーション発展省広報部によると、「ウ」は今回のワクチンのバッチを無償で受領した。これまでに供給されたワクチンは、優待価格で届けられた。

・「ウ」が購入及び無償で受領した、様々なメーカーの新型コロナウイルスワクチンの量はこれで4,900万回分を超えた。

(1) ZF-UZ-VAG2001 3,778万9,938回分

(2) モデルナ 300万60回分

(3) AstraZeneca 240万4,480回分

(4) Pfizer/BioNTech 231万6,600回分 (注: 12月6日、直近のバッチが米から届けられた)

(5) シノバック 197万6,000回分

(6) スプートニクV 134万1,790回分

(7) スプートニク・ライト 20万7,500回分 (注: このうちの20万回分は、12月10日に露から届けられた)

・「ウ」国内で集団ワクチン接種が開始された4月1日以降、3,600万回以上のワクチン接種が行われた。内訳は、1回目のワクチン接種1,824万回、2回目のワクチン接種1,179万回、3回目のワクチン接種600万回以上である。ワクチン接種対象者の85.1パーセントが、少なくとも1回のワクチン接種を受けた。(ワクチン接種対象者の)55パーセントが、ワクチン接種を完了した。

・12月9日、オタベコーフ衛生疫学福祉・公衆衛生副局長は、本年末までに「ウ」成人人口の65~70%、すなわち約2,150万人が新型コロナウイルスのワクチン接種を完了する予定であると述べた。

(12月13日付 Gazeta)

【その他】

●タリバーンに対する飛行機等の返還の可能性

・TOLONewsは、タリバーンの代表が、アフガン人パイロットが隣国に移動させた飛行機及びヘリコプター数機を奪還した旨報じている。

・バルフ県の勝利(AI-Fath)団の司令官は、飛行機返還の試みが行われている旨述べた。同司令官は、「国外に引き渡された飛行機は、国に返還された。継続して取り組んだ結果、飛行機の一部は、アフガニスタンに返還された。」と述べた。

・さらに、タリバーンは、アフガン人パイロットに対し、彼らに対する脅威はないと述べた上で、帰国を改めて呼びかけた。ヤクーブ「国防相代行」は、タリバーンは強い空軍を創設する意向である旨述べた。

・以前、バラールダル・タリバーン暫定政権「副首相」は、ウズベキスタンに対し、前政権の陥落後に国を去ったアフガン人パイロットが搭乗していた飛行機及びヘリコプターを返還することを呼びかけた。

(注: 11月30日のイルガーシェフ・アフガニスタン担当大統領特別代表との会談後に本件について報じられた。)

・アフガン人パイロットは、同国の航空装備品の25%をウズベキスタン及びタジキスタンに移動させたことが明白になった。

(12月6日付 Kun. uz)

●タシケント・カブール間のフライト再開予定に関するカムエアー社関係者の発言

・アフガニスタンの航空会社であるカムエアー社は、12月14日からカブール・タシケント間の旅客便を再開する。同社のウズベキスタン事務所は、「良い知らせがある。12月14日からフライトを再開する。」とリアノーヴォスチ通信に述べた。(注：なおカムエアー社及びリアノーヴォスチ通信社のウェブサイトでは本件について確認できなかった。)

・同社の代表は、旅客便は、第一段階として、火曜日及び土曜日の週2回運航される旨指摘した。

(12月10日付 Sputnik)

2. 経済

【景気・経済統計】

特になし。

【経済政策】

特になし。

【産業】

特になし。

【対外経済】

特になし。

【エネルギー分野】

●中国企業によるフェルガナ州におけるイノベーション・テクノパーク及び太陽光発電所の建設計画

・フェルガナ州広報部によると、中国企業が同州においてイノベーション・テクノパーク及び太陽光発電所の建設を計画している。

・12月7日、ボゾーロフ同州知事は、中国企業「FHT Future Technology」社の代表者である Li Venjin 氏及び Chen Xingyang 氏、並びにウズベキスタンにおける同社パートナーから構成される投資グループと会談を行った。

・会談の中で、Li Venjin 会長は、同州で実施を計画している大規模プロジェクトの草案を提示した。

・プロジェクト草案によると、「FHT Future Technology」社は、同州の25ヘクタールの土地にイノベーション・テクノパークを、500ヘクタールの土地に太陽光発電所（総額3億5,000万米ドル）を建設することを計画している。同発電所の電力は、同テクノパークに建設される外国企業に供給される。

・同テクノパークでは、ソフトウェア及び情報技術などの最新のイノベーション技術に基づく製品の生産が計画されている。また、高品質なセメント生産プロジェクトも提示された。

・ボゾーロフ知事は、協力して各プロジェクトを推進するために、投資家の代表者及び同州職員から構成される作業部会を設立することを提案した。

・同知事はまた、砂漠地帯の砂及び岩が多い乾燥地域におけるプロジェクトの実施の可能性を検討するよう指示を出した。

(12月7日付 Gazeta)

●カラカルパクスタン共和国カラウゼック地区風力発電所プロジェクトに関するサウジアラビア企業との合意の署名

・12月17日、カラカルパクスタン共和国カラウゼック地区に建設される風力発電所（発電容量100MW）プロジェクトに関する「ACWA Power」社（サウジアラビア企業）との合意が署名された。同プロジェクトの費用は1億800万米ドルである。

・同プロジェクトは、公開入札において電力1kWh当たり2.5695セントの価格を提示した「ACWA Power」社が落札した。

・同プロジェクトを実施するために設立された「ACWA Power Wind Karatau FE LLC」社は、ウズベキスタン電力網公社との25年間の売電契約に署名した。また、「ACWA Power Wind Karatau FE LLC」社及び「ACWA Power」社は、「ウ」財務省と公的支援合意（GSA）を署名した。

・当該合意の署名式には、エネルギー省、投資・対外貿易省、財務省付属官民パートナーシップ（PPP）発展庁及び欧州復興開発銀行（EBRD）の代表者らが出席した。

・カラウゼック地区における風力発電所は、「ACWA Power」社による「ウ」における第4番目のプロジェクトである。特に同社は、シルダリア州における2基のガスタービンを持つ火力発電所の建設プロジェクトの実施に協力している。

・カラウゼック地区風力発電所プロジェクトは、エネルギーバランスの多角化及び再生可能エネルギーによる発電能力の向上を目指す「ウ」政府の取組を支援することを目的としている。2026年までに、太陽光及び風力による総発電能力を8GWにすることが計画されている。

(12月17日付エネルギー省ウェブサイト)

【運輸交通分野】

●マフカーモフ運輸大臣とオソエフ・キルギス運輸・交通大臣との会談

・12月11日、マフカーモフ運輸大臣が率いるウズベキスタン代表団は、オソエフ運輸・交通大臣が率いるキルギス代表団と会談を行い、運輸及び道路交通に関する二国間問題を議論した。

・まず双方は、キルギス領を通過する「（フェルガナ州）リシタン＝ソフ」間（全長29キロ）の道路のうち、キルギス側が実施した8キロの修繕作業について情報交換を行った（注：12月11日付運輸省ウェブサイトは、同12日よりHumo Airが「フェルガナ＝ソフ」線の定期便を就航させると発表した）。

・現在、当該道路の修復により道路交通が確立され、「ウ」国民はキルギス領の集落を通過せずに最短ルートでソフ地区に到着できるようになった。

・ソフ地区の住民との会談の中で、同地区の長老らは、ミルジヨーエフ大統領の取組により実施された変革及び刷新作業により、同地区の整備が著しく進んだ旨強調した。

・その後、フェルガナ州リシタン地区庁舎において、二国間の運輸及び輸送回廊の開発に関する議論が行われた。

・特に双方は、「ウズベキスタン＝キルギス＝中国」三国間鉄道の建設について意見交換を行い、同プ

プロジェクトが両国の国益に完全に合致し、地域の輸送能力が発揮される旨強調した。これに関連し、同プロジェクトに向けた協力を継続することで合意に達した。

- ・ 会談の中で、両国の貨物輸送業者に平等な機会を提供する、国際複合一貫輸送ルート「タシケント＝アンディジャン＝オシュ＝イルケシュタム＝カシュガル」の貨物輸送量の増加を通して、同回廊の機会を効果的に活用することについて意見交換が行われた。また、双方は、新たな道路「フェルガナ＝ウチクルガン＝ダロットクルガン＝サリタシュ＝イルケシュタム」の建設プロジェクトについて議論した。
- ・ 会談の結果、双方は、両国間の運輸及び輸送分野における関係を発展させるための相互協力プロジェクトを一貫して継続することで合意に達した。

(12月12日付運輸省ウェブサイト)

●「トルケスタン＝シムケント＝タシケント」間高速鉄道の開通の見通し

- ・ 12月6日、ウズベキスタン・カザフスタン両国首脳会談において達成された、両国間の輸送回廊及び産業協力センターに関する合意に係る追加情報が発表された。
- ・ ミルジヨーエフ大統領がカザフスタンを国賓訪問した際、トカエフ・カザフスタン大統領との会談の中で、両国及び第三国市場へのアクセスを確保する新たな回廊の創設についても議題に上がっていた。
- ・ ウズベキスタン大統領直轄戦略・地域研究所によると、「トルケスタン＝シムケント＝タシケント」間高速鉄道は、2024年に開通する見込みである(注：2月15日付「Sputnik」によると、同鉄道の時速は260キロ、「トルケスタン＝タシケント」間の所要時間は2時間となる予定)。5両編成の車両が年間約190万人を輸送することになる。
- ・ また、両国首脳会談で合意された「ウチクドゥク＝クズルオルダ」鉄道及び道路(建設プロジェクト)により、ナボイ州とカザフスタン・クズルオルダ州との間の移動距離が大幅に短縮され、投資の増加が見込まれている。また、同回廊は、中央アジア諸国をカザフスタン中部及び北部を経由して露に接続する。

(12月9日付 Kun. uz)

●アジア開発銀行(ADB)がウズベキスタン西部「ブハラ＝ヒバ」鉄道区間の電化などを目的とした1億6,200万米ドルの融資を承認

- ・ アジア開発銀行(ADB)広報部によると、同行は、ウズベキスタンの鉄道サービスの改善、並びに地域貿易及び観光の発展を目的とした1億6,200万米ドルの融資を承認した。

・「ブハラ＝ヒバ」鉄道区間の電化

(1) 同プロジェクトの枠内で、ブハラ、ミスキン、ウルゲンチ及びヒバを含む「ウ」西部の都市を結ぶ456キロの鉄道の電化を行うことが想定されている。これにより、時速250キロで走る高速列車の運行が開始され、「ブハラ＝ヒバ」間の移動時間は2時間に(注：現在の電車による所用時間は約6時間半)、「タシケント＝ヒバ」間の移動時間は7時間(注：同約14時間～17時間)に短縮される。

(2) ジュコフADB中央アジア・西アジア局長は、二重内陸国である「ウ」にとって、「信頼性の高い安全な輸送インフラ」は、経済発展の重要な推進力となる旨強調した。同プロジェクトは、ホレズム州を他地域と結ぶ経済回廊の創設、観光産業のパンデミックからの回復及び「ウ」の「地域輸送ハブ」としての確立に資する。

(3) 同プロジェクトは、中国と中央アジアとを結ぶ、中央アジア地域協力（CAREC）の第2回廊の一部であり、列車本数及び鉄道サービスの拡大を通して、「ウ」の対外関係及び貿易関係の改善に資する。

(4) 「ブハラ＝ヒバ」区間の電化により、2026年までに、年間旅客輸送量は約28万人から100万人に増加し、年間貨物輸送量は1,180万トンに達すると予想されている。

(5) 岩崎秀明ADB中央アジア・西アジア運輸・交通課長によると、同プロジェクトは、農業、産業及び観光を促進するだけでなく、鉄道線路をディーゼル・エンジンから電気に切り替えることにより、低炭素交通への転換及びパリ協定の義務を履行するための「ウ」の取組を支援するものである。

・さらに、同プロジェクトは、電子チケットシステムの開発、観光マネジメントへの女性の参画及び教育、女性、子供、老人及び障害者を対象としたアクセス及び安全性を考慮した鉄道駅周辺の都市開発などを支援する。

・「ウ」政府はまた、アジアインフラ投資銀行（AIIB）に対し1億800万米ドルの（協調）融資を要請した。ADBは、同融資の一部を管理する。同行はまた、鉄道の運営及び管理のために選抜された女子学生を対象とした教育など、ジェンダー対策を支援する目的で30万米ドルの無償技術支援を提供する。

・なお、（本年11月25日、）ADBはタシケント州の上下水道サービスの改善を目的とした1億6,100万米ドルの融資を承認した旨報じられた。

・さらに本年12月9日、同行は、中業企業のための好ましい環境構築に向けた改革を支援することを目的とした1億米ドルの融資を承認した旨発表した。

・財務省によると、「ウ」の国際金融機関からの公的対外債務の大部分はADBからの借入であり、同行からの借入額は本年10月1日時点で51億米ドルに達した。

（12月17日付 Gazeta）

●ウチクドゥク＝クズルオルダ」間道路及び鉄道の開通の見通し

・カザフスタンの報道サイト「LS」が、同国の産業インフラ開発省の発表を引用し報じているところによると、カザフスタンとウズベキスタンは「クズルオルダ＝ウチクドゥク」間道路及び鉄道の建設について合意した。両国は本年12月に対応する合意に署名した。

・同高速道路の長さは280キロとなる見込みである。2024年から2025年にかけて、フィージビリティスタディ（F/S）を行い、2025年から2～3年以内に道路建設を開始する予定である。同省は、「道路の推定建設費用は、検問所の建設費である500万テンゲ（1,140万米ドル）を含め、7,500万テンゲ（約1億7,200万米ドル）となる」と述べた。同高速道路は、国際回廊「クズルオルダ＝ジェスカガン＝パヴロダル＝露国境」の一部となる。

・さらに、「ウ」は、新たな鉄道路線「クズルオルダ＝ウチクドゥク」の建設を開始する。共同行動計画が署名され、フィージビリティスタディ（F/S）を行うための経済分析が計画されている。

・「LS」によると、両国の計画はこの鉄道だけではない。観光のポテンシャルを高めるために、2021年から2024年にかけて、「トルケスタン＝シムケント＝タシケント」間高速鉄道（1億6,000万テンゲ（3億6,700万米ドル））の建設に関する課題が検討されている。同プロジェクトは、中央アジア最大の歴史的及び文化的中心地を結びつけ、年間旅客輸送量を最大190万人に増やすことに寄

与する（同鉄道の運行速度は250キロ）。

（12月23日付 Spot. uz）

【ドナーの動向】

●印輸出入銀行がウズベキスタンにおけるインフラ開発及び教育分野のプロジェクトの実施に4億4,800万米ドルを供与

・投資・対外貿易省広報部によると、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、プラブハト駐ウズベキスタン印大使と会談を行った。

・双方は、有望な投資プロジェクトの策定、両国の企業家間の貿易関係の確立及び両国間の包括的な経済協力プログラムの策定に関する共同作業を活発化させることで合意した。

・地域間協力、特にアンディジャン州とグジャラート州との間の関係を活発化させる措置が検討された。さらに、投資、貿易及び文化・人的交流分野における共同プロジェクト及びプログラムの実施を念頭に置いた、フェルガナ州とハリヤーナ州、ブハラ市とハイデラバード市及びタシケント市とニューデリー市との間の直接的な協力を確立する機会が検討された。

・双方は、印輸出入銀行がインフラ開発及び教育分野のプロジェクトに4億4,800万米ドルを供与することを歓迎し、当該プロジェクトの実施のために協力することで合意した。

・また、在「ウ」印大使館と投資・対外貿易省との間で、「共和国科学専門アレルギー学センターにおける新たな計測研究所の設立及び整備」及び「シルダリア州の学校におけるコンピューター機器の整備」プロジェクトの実施のための無償資金の供与に関する協力覚書（MOU）が署名された。

（12月13日付 Gazeta）

●ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣と Bang Moon-Kyu 韓国輸出入銀行総裁との会談

・ソウル市において、ウムルザーコフ副首相兼投資・対外貿易大臣は、Bang Moon-Kyu 韓国輸出入銀行総裁と会談を行った。

・会談の中で、（韓国輸出入銀行傘下の）韓国対外経済協力基金（EDCF）による協力が活発化し、同基金の融資によるプロジェクト数が増加しているという前向きなダイナミクスが指摘された。特に、同行は、2014年から2017年に4件（約1億8,000万米ドル）のプロジェクトを、2018年から2020年に7件（6億6,000万米ドル）のプロジェクトを実施した。同行との協力の優先分野は、保健、教育及びインフラ開発である。

・ウズベキスタン側は、新たな投資プロジェクトの資金調達のために、EDCF側が譲許的融資を10億米ドル増額する決定を下したことに謝意を表明した。2021年から2023年の協力プログラムは、13件（総額12億米ドル）のプロジェクトから構成されている。

・電気工学、バイオ医薬品、冶金及び化学産業分野における新プロジェクトを共同で実施するために、新設された経済協力増進基金（EDPF）との協力を深めるためのさらなる措置が特定された。

・会談の結果、「ウズベキスタン共和国の医療施設における医療機器の整備」（8,800万米ドル）及び「腫瘍学病院の建設」（1億5,000万米ドル）プロジェクトのための融資契約が署名された。

（12月15日付投資・対外貿易省ウェブサイト）

●**アジア開発銀行（ADB）がスーパーマーケットチェーン「Korzinka」の活動支援を目的とした1,200万米ドル相当の融資を承認**

・アジア開発銀行（ADB）ウェブサイトによると、同行はスーパーマーケットチェーン「Korzinka」の活動の支援を目的とした1,200万米ドル相当（スム建て）の融資を承認した。同融資は、「Korzinka」を管理する「Anglesey Food Foreign Enterprise」に対し、償還期間3年（据置期間1年を伴う）の条件で供与される。

・同融資は、パンデミックの影響に対する同社のレジリエンスの向上、食料安全保障の維持及び4,400名の同社社員及び1,200名の農民の生活の支援に資する。

・今次融資は、同行がウズベキスタンの農業及び食品産業企業に政府保証なしで直接供与する初めての融資である。同融資は、同行がパンデミック下におけるビジネスを支援するための200億米ドルのプログラムの一部である。

・なお、2019年11月、「Korzinka」は、欧州復興開発銀行（EBRD）から最大4,000万米ドルの投資資金を誘致した旨発表した。また、同行がスーパーマーケットチェーン「Korzinka」の株式を購入した旨報じられた。

（12月17日付 Gazeta）

●**日本政府がスルハンダリア州の水供給と衛生インフラの向上を支援**

・国連児童基金（UNICEF）は、日本政府の43万3,000米ドルの無償資金協力により、テルメズの一次診療機関の水衛生管理（WASH）システムを改善するための対策を実施する。藤山美典駐ウズベキスタン日本国大使は、「日本政府は「ウ」およびアフガニスタンの周辺国に対し、UNICEFやその他の国連機関を通じて保健、食糧、栄養、水環境整備を支援する」と述べた。

・同案件には、水道管の建設、貯水槽、軟水器とフィルターの設置、衛生設備の建設と改修、電気と給湯用のソーラーパネルの設置、および廃棄物処理施設が含まれる。また、最新の水衛生インフラの継続的な運用と保守もサポートする。ママザーデUNICEFウズベキスタン常駐代表は、「一次診療所のインフラ整備は、人々に必要なサービスを提供する重要な効果がある。感染予防と水環境の整備は、女性や子供など脆弱な者に対するサービス供与の基礎となる」と述べた。

・UNICEFは同案件を2022年3月から2023年2月にかけて実施する。同案件により、テルメズ地区に居住する約8万人に対して7つの一次診療施設と廃棄物管理システムにより改善された水衛生環境へのアクセスが提供される。また、衛生に関する教育および情報資料も提供される。

（12月23日付 Gazeta）

【その他】

●**UNHCRによるテルメズからアフガニスタンへの人道支援物資の発送**

・国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）広報部が「Gazeta」に伝えたところによると、12月15日、UNHCRは、人道支援物資を載せたトラックをテルメズからアフガニスタンに発送した。

・貨物は、ウズベキスタン政府の支援の下で「Termez Cargo Centre」に設立されたUNHCRの人道支援拠点（ハブ）から発送された。UNHCRの発表によると、「ウ」・アフガニスタン国境から2キロ以内の場所に位置する同貨物センターは、アフガニスタン国民への人道支援を確保するためのUNHCR

Rの取組の主要な要素である。

・人道支援物資には、キッチンセット及びポリマーラップなどの生活必需品が約40トン含まれている。本年10月から11月にかけて空路及び陸路でテルメズに到着したこれらの物資は、現地で保存されている在庫を補充し、新たな需要を満たすために、トラックでアフガニスタンへ発送された。なお、10月には、約100トンの人道支援物資が飛行機3機によってテルメズに到着した旨が報じられている。

・レームスUNHCRシニア連絡調整員（Mr. Frank Remus）は、「我々は、最も支援が必要な時に、UNHCRが迅速な人道支援を提供することを可能にする、『ウ』政府及びテルメズの現地パートナーからの継続的な支援を評価する。現在、何百万ものアフガニスタン国民が厳冬を前に食糧難に直面し、非常に脆弱になっているところ、命を救い人道危機を阻止するために緊急支援が必要である」と述べた。

・テルメズにおけるUNHCRの物流拠点（ハブ）は、生活必需品の在庫を保存するだけでなく、アフガニスタン、イラン及び中央アジアでのUNHCRの活動のための人道支援物資を集約し発送する拠点としても利用されている。

・したがって、UNHCRによると、UNHCRのアフガニスタンにおける緊急事態対応作戦の全期間、テルメズを経由した人道支援物資の定期的発送が行われる。

（12月15日付Gazeta）

●UNICEFによるテルメズの物流センター訪問

・ママザーデUNICEFウズベキスタン事務所常駐代表は、アフガニスタンのための人道支援物流センターを評価するためにテルメズを訪問し、UNICEFが物流ハブの活動に直接参加することについて、現地の当局及びパートナーと議論を行った。

・同常駐代表は、テルメズに居住する「ア」国民の需要について議論するために、ボボーロフ・スルハンダリア州知事と会談を行い、「Termez Cargo Centre」を訪問し、世界食糧計画（WFP）関係者と会談を行い、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が人道支援物資をアフガニスタンへ輸送するプロセスのオブザーバーとして、エイドリアン駐ウズベキスタンEU大使に合流した。

・訪問の中で、アフガニスタンと国境を接するテルメズ地区にあるグリバホル・マハッラ、国民赤新月社スルハンダリア支部及びアフガン国民のための教育センターにおいて、女性、子供、若者をはじめとする弱者グループの需要を見出すために、議論が行われた。

（12月17日付UNICEFウズベキスタン事務所テレグラムアカウント）